

3月17日、金沢中学校の閉校式典が行われ、多くの方々に惜しまれつつ、66年の歴史に幕が閉じられました。4月からは統合された横手北中として新たなスタートを踏み出しています。



議会だより

2013 第32号 ● ● ● 平成25年4月15日発行

CONTENTS

会派代表質問 2～3
5つの会派から質問が出されました。

一般質問 4～9
3日間で計11名の議員が演壇に立ちました。

スポーツ立市に向けて 9
議員提案による初めての政策条例を制定。

3月定例会の概要 10～11
新年度予算などを可決。

常任委員会・分科会審査報告 ... 12～15
各常任委員会・分科会での議案の審議状況を報告します。

議会改革特別委員会 最終報告 16
更なる議会改革へ方向性が示されました。

横手かまくらFM 教えて! 横手市議会

毎月 第2・第4月曜日
午前10時45分～11時 (15分間)
※再放送は翌火曜日 午前7時30分～

好評放送中!! 市議会HPでも聴けます!



**平成25年 第1回3月横手市議会定例会が
2月25日から3月21日までの25日間の会期で開かれました。**

会派代表質問 交わされました!

各会派から市長等へ 市政についての論議が

5会派から市長、教育長へ 横手市の施政・教育方針について問う!!

3月5日、横手市議会では二度目となる会派代表質問が行われました。会派代表質問は、各会派が日頃の様々な活動を通して見えてきた課題について、市長や教育長に考えをたずねたり、政策の提言などをするもので、昨年制定された議会基本条例に基づいて行われています。

今定例会では、5会派がそれぞれ会派の意見をまとめて市長や教育長に質問を行い、論議を繰り広げました。



「地域経済の活性化と雇用対策の推進について」

問 トヨタ自動車参入へ戦略的気概が今一か。積極的・独自活動で参入を進め誘致を図れ。

答 関連企業との人脈を活用した訪問活動をしている。きめ細かな活動のため、県との連携を密にしていきたいと考えている。

問 技術、技能職人の雇用の確保対策へ、職業訓練「横手教室」の開設を進めよ。

答 雇用のセーフティネット対策「横手教室」について、業界の意向を伺い、受講者見込み、技術指導者、設備や雇用効果の可能性を検討し、協会と相談を進めたい。

問 「パート労働者等退職金共済制度」を、正規雇用支援策同等に、設立へ指導と支援を。



市内で行われている技能講習

答 基本的には労使関係で決まるので支援策は簡単ではない。元気に勤められる環境づくりへの手伝いと、制度をつくれる経営のあり方で支援し、今後の検討課題とする。



市民の会 質問者 田中敏雄議員

「公の施設、跡地の有効活用を」

問 施設、跡地の身近な課題として、閉校した小中学校跡地の問題がある。更にグラウンドや野球場などを加えると膨大な面積となる。そして、この維持、管理経費には多額の経費が予想されるが市としての基本的な考え方は。

答 市としては修繕、改装などせず、原則解体である。その上で

1. 地域の要望を第一に検討し、絶対に必要なのか十分話し合いをしながら進めていく。
2. 地元要望もなく、ほかの用途として活用予定がない場合でも民間、NPO等から利活用の希望がある場合は、産業振興や活性化に資するものと判断出来れば(譲渡、賃貸借)対応していく。



閉校した旧横手西中学校の校舎

その他の質問

- 国からの地方公務員給与削減要請について。
- 市民の定義について。



新政会 質問者 土田祐輝議員

「合併特例債関連 事業について問う」

問 合併特例債関連の事業は計画通りに進んでいるのか。また、今後の取り組みは。

答 財政シミュレーションでは448億円の発行を計画した。平成24年度末の累計発行見込み額は約190億円で42.4%の進捗状況。概ね計画通りに進んでいる。今後の事業はクリーンプラザよこて整備事業、小中学校統合事業、学校給食センター統合事業、地域局庁舎整備事業等がある。

問 県下第二の都市に適した総合体育館、市民会館建設の考えはないか。

答 総合体育館はスポーツに限らず、防災の観点からも必要性を検討している。市民会館についての計画はない。



老朽化の進む市民会館

その他の質問

- 経済雇用対策について。
- 雪対策について。



「平成25年度 横手市教育方針について」

問 教育分野における国の動向を見据え、横手市という地方自治体が抱える教育課題をどうとらえて取り組んでいくか。

特に、いじめ問題について、横手市はどう解決していく考えかを質問する。

答 市のいじめの調査結果は、平成23年度が小学校0、中学校4。平成24年度は小学校が16、中学校が13と増加しているが全国的に中学生のいじめ自殺問題が報道されて以来、報告体制が強化されたためと考える。

平成8年から、子どもと保護者が相談しやすいように「相談機関一覽カード」を各家庭に配布している。

生徒会で「いじめ撲滅キャンペーン」をしたり、学級活動で子ども達が自主的にいじめをなくす取組をしている。



市内中学生が作った“YOKOTE っこ宣言”

「地域づくり協議会について」

問 「自分たちの地域づくりを市民自身で考えてもらうために、地域づくり協議会に年間2億円の予算を配分する」とした市長公約の意図は、全委員に正確に伝わっていると考えているか。委員間に意識の差がありすぎないか。

決して少ない額ではない予算だ。統一した意思・目的と一定のルールがなければ、ガス抜き機関と思われるもやむを得ない。

答 委員の委嘱状交付時と毎年の全体研修会で話しているので意図は伝わっていると思う。地域の個性と自主性を尊重しているが、その中ではやむを得ない。

地域づくり協議会は、今後必要と考えているが、検証の必要はある。25年度は、26、28年の3カ年の計画を立ててもらいたいと考えている。



地域づくり協議会全体研修会



ニューウエーブ 質問者 佐藤徳雄議員



日本共産党 質問者 立身万千子議員



新風の会 質問者 木村清貴議員



佐藤 誠 洋

市長答弁がその場限りであることから、施策の推進が停滞している!!

問 昨年9月議会時に、公共調達を全庁で地元企業に優先発注する環境を整えると答弁されたが、新年度予算には何も反映されておらず、その場限りの答弁を繰り返しているだけだ。

答 新年度予算に具体的な数値目標を設定して、(公共調達の地元優先発注に)取り組むことはしなかった。入札制度の仕組みを変える必要もあった。この6か月間に議会に説明する機会はいくらでもあったが、これまで何もしていない。指定管理者を公募する仕組みについても、約束した期限が過ぎていくが、何も説明がない。また、公募審議会の指定管理料の算定についても、依然と変わりがなく、透明性、客観性に乏しい。

問 鶴ヶ池荘の源泉井戸復旧に忙殺された。公募審議会については、過去の担当課長による説明と現状に違いがあるようにあり、説明努力が足りなかったと反省している。
問 平成21年に発生した元職員による市税横領事件において、今年4月には市会計の穴を埋

めると市長は昨年9月の決算委員会で約束したが、どうか。
答 当時の元上司の方々を中心に、穴埋めに協力してもらえように進めている。同時に自身の責任もとりたい。

問 投票率をあげるための具体策を伺う。
答 期日前投票が、広く浸透してきているので、これまでの各地域局の期日前投票所に加え、大型ショッピングセンターに新たに設置できるように進めている。10月の市長選、市議選に間に合うようにしたい。

その他の質問
○市長公室のあり方について。



市長の答弁を追及する佐藤誠洋議員



播磨 博 一

災害時における後方支援拠点構想について

問 市が進めようとしている後方支援拠点構想の内容について伺う。
答 平成25年度を目途に改訂される県の防災計画に盛り込まれるよう協議をしている。また、平成26年度に当市で実施される県の総合防災訓練に後方支援活動が取り組めるよう進めていく。あわせて災害発生直後の救急医療拠点として活用できる、バスケットコート3面規模の施設整備を考えている。輸送面での東北中央自動車道の整備については、関係機関に積極的に働きかけていく。国道107号の大沢バイパスは、平成28年度に整備完了の予定で進められている。

問 様々な農業施策を進めるためには受け皿となる農業者の人材育成と経営力の強化が必要と思うが、その対策について伺う。
答 人材の育成は急務であり、人・農地プランやフロンティア農業研修、新規就農者を対象とした市場研修等を行う。人づくり、仲間づくりのための予算を措置した。また、認定農業者数は減少傾向

にあるが、認定農業者として認定される農業法人は増加している。こうしたことから法人経営に移行することによって経営の体力強化が図られていると考えるので、認定農業者制度の周知とともに、集落営農組織の法人化を支援していく。

問 県有種雄牛「義平福」を活用した肉牛振興について伺う。例えば給食に提供してはどうか。
答 農家やJA、県の動向を踏まえ振興策を検討する。給食への提供については、地元産のすばらしい食材に出会える機会と食育の面からもいいことと思うので検討してみたい。

その他の質問
○職員表彰について。



期待の高まる県有種雄牛「義平福」



齊藤 勇

将来を見据えた新庁舎(十文字)建設を!

問 新しい十文字庁舎建設のための検討委員会が平成24年9月に立ち上げられているが、建設費5億円(解体費含む)の条件提示は低過ぎるのではないか。
答 また、建設検討委員会からは改築の際、文化センターも併設されるよう切望されているが、行政サービス、住民交流、防災機能という三つの部会で自由な意見をもって検討されている。今後、十文字にとって何が必要かを委員会のまとめを踏まえて調整される。

問 災害があれば、新庁舎も避難所となるが庁舎の周辺は格段に住居が多く、スペースが足りない。検討委員会の意志が生かされないのではないか。
答 基本的には、人口に差異があっても、機能保障でカバー出来ると思うが、必要だという点を考慮し調整を図りたい。
問 3年連続の豪雪は、多大な危機感をもたらしている。約百年前後で震度6強の大地震が2回も起きています。まずは意識付けのために各集落における避難の衣食住への支援



改築予定の十文字庁舎

問 反TPPの行動を
答 引き続き政府に対してはTPPに参加することのメリット、デメリットの情報を公正かつ正確に、国民に対して開示するよう求めていくとともに、県や近隣自治体とも連携して取り組んでまいりたいと考えている。



佐々木 誠

横手川の浄水、横手市総合雪対策、農業政策について

問 何十年前の話だが、お城山に登り、横手川と横手の町並みを眺めた時、息を呑む程、美しい風景が私の心に残っている。横手市のシンボル、市民の心のシンボルである横手川の水質の状態をどの様に認識しているのか伺う。
答 水質については、県と市が9項目について検査をしている。また、横手川や雄物川の河川の水生生物の調査を行っているっており、横手川の汚れについては、特に問題はないと認識している。

問 横手川浄水の今後の取組みについて伺う。
答 下水道未加入者には、加入促進や合併浄化槽の設置を推進して、生活雑排水による水質汚染の防止に努める。
問 横手市総合雪対策の中で、冬季間の地下水不足の解消について述べていたが、その内容について伺う。
答 横手市内には、消流雪施設が150kmあり、市民生活に大いに役立っている。真冬日には地下水不足により、上水道への影響が心配される。その事から、地下水不足の解



未来に残したい美しい横手川

消の為に、水田かん養を含めた調査研究を進めて参りたい。
問 農業政策については、年度当初に目標設定をし、年度末には施策結果を検討評価し、次年度につなげていく事が大事だと思ふ。平成25年度の農業政策の目標設定を伺う。
答 平成25年度は、食と農からのまちづくりを柱として各施策を推進していきたい。新たな担い手の定着に向けて、更なる新規就農者の掘り起しに向けた取り組みを進めていきたい。食と農を最大限に生かす、新たな付加価値を生み出し、地域ビジネスの展開や新たな雇用を生み出す六次産業化を推進して参りたい。



寿松木 孝

コンプライアンス（法令遵守）について

問 市では職員の不祥事が続いたことから、平成20年にコンプライアンスを策定し運用してきたがその成果は。また、市が係わる第3セクターや関連施設等での運用は。

答 公務員の法令遵守は当然のことだが、全国的にも実際には不祥事が後を絶たない状況だ。当市ではコンプライアンスにより相当の効果を挙げていると考えている。市が係わる様々な団体については、その各団体の自主性で運用されているものも考える。

問 市民目線では、市民の税金で建設し指定管理料が支払われ運営されている温泉施設等は、市が直接経営しているのと同じに見える。当然法令は遵守しなければならぬと思うが、ある施設の経営者が書類送検をされ、雇用の問題で元役員に訴訟を起こされている。異常な状況と感ずるが市長の見解は。

答 一般論として、警察に疑義があると訴えれば、基本的に警察は検察庁の方に書類を送ることを書類送検と言いつつ、検察で判断を仰ぐことと捉えている。様々な点で心配をしているが、その推移を見守りたい。

問 その考え方が大きな認識の違いだ。警察が捜査をした結果、全く疑義がなければ書類送検はされないかと判断するのが常識。また、今回の書類送検や訴訟に関し、全く説明がされていないことは大きな問題と考えるが。

答 説明が不足していたと捉えられれば、これはお詫びしなければと感じる。全体的な施設管理で、コンプライアンスに限らず、経営への係わり方について、明確でなかった部分もあった。今後については、アウトソーシングの指針を策定する方向であり、この中で明確にしていきたい。



市が策定したコンプライアンスマニュアル



遠藤 忠裕

食と農からのまちづくり、西部地区多機能型直売所構想について

問 どのような、多機能型直売所を考えているのか。

答 食を手段として基幹産業である農業を元気にし、そして観光につなげたい。多機能型直売所は地域の農産品を活用したレストランを核とし、レストランブランドでの商品開発、製造を行なう加工所や農産物直売所、地場産品の販売、体験農場等の機能をもった施設を構想している。

問 レストランを中心にした考えから、加工品、六次産業化を考えているようだが。

答 六次産業化を具体化していくポイントは、レストランとシェフと考えている。シェフが中心となって、地域の農家と協力体制を作り、その地域でしか食べられない食事を楽しむ為に、全国からお客様が訪れるような場所をイメージしている。

また、レストランのシェフが指令塔となり、付加価値の高い加工品を開発販売し、アンテナショップやブランド加工品を市内外に展開する事により、農産物と商品の販路を確保しながら、地域に新たな

問 建設場所はどこか。

答 えがおの丘、雄川荘を含む三吉公園エリアを予定地として検討を進めている。

問 農家所得の向上、農産物販売をどのように進めるのか。

答 県、JA、金融機関の協力を得ながら、飲食店や加工ニーズに応えられる営農形態の研究を進めていきたい。農作物の販路をあらかじめ設定する事で、栽培されている農作物の活用、新たな作物の導入等、地域の生産力、生産技術の下支えをしていく仕組みを同時に行なう。一次、二次、三次産業の所得向上の為に商品の付加価値を高め、売上げを確保し、お客様の満足度を高め好循環になるようにしたい。



検討中の建設候補地



堀田 賢逸

家畜の悪臭対策について ~何年我慢しなければならないのか~

●家畜の悪臭対策について

問 どのような対策をしているのか。

答 家畜関係の苦情があれば生活環境課、農林担当と県が連携して相談に応じている。

問 畜産農家が悪臭対策として、建物の改善する時に補助等は考えているのか。

答 市に支援制度は無いが、畜産農家が国、県の支援事業や制度資金を活用した対策等で、住民からの理解が得られるよう環境保全型の畜産経営を推進していく。

問 大雄堆肥センターの今後の運営について。

答 有機資源である畜糞や生ごみを再利用し、堆肥を農地に還元する重要な施設と考えている。悪臭に対しては、専門家の指導を受けながら対応していく。

問 飼料の自給対策は。

答 米を飼料に使うことには様々な利点がある。しかし自給が進んでも、輸入穀物との価格差があることから、飼料の高騰対策の解決には課題が多い。

問 地域支えあい活動の進み具合について。

答 昔は向こう三軒両隣や地域で支えあう仕組みがあった。しかし社会情勢や家族形態の変化、価値観の多様化等で共助意識が薄くなり、地域力を高めるのが課題となっている。

平成22年11月、さわやか福祉財団からの支援を受け「尊厳フォーラム・イン・横手」を開催。その成果を受けて地域包括支援センターが「地域支え合いネットワーク市民集会」を開催した。

各地域局でも研修会などを開き、多くの市民の参加が見られる。市総合計画における「地域ケアシステムの充実」は着実に進んでおり、高齢者が住み慣れた地域で生活し続けていける社会を目指す。



地域支え合い体制づくり講演会



土田 百合子

横手デマンド交通本格運行に向けて

問 横手地域中心部バスゾーンの解消について問う。

答 実証実験の結果を踏まえ、事業者との協議を重ね、より良い解決を図っていききたい。

問 妊婦や運転免許返納者に対する割引きについて。

答 割引制度については、デマンド交通の将来の姿と合わせて総合的に検討していく。

問 子ども読書活動と学校図書館司書配置状況について。

答 本市では、乳児に絵本を配布するハートフルブック事業や司書補助員の配置されていない小学校への巡回図書等を実施している。今後は、横手市図書館協議会から意見を頂き、読書活動推進計画の策定作業を進めていく。

問 トイレ洋式化の推進を。

答 トイレ総数に対する洋式化の割合は、36.8%。なお、学校統合終了時には50%に達する。順次トイレ洋式化の工事を行っていききたい。

問 マルチメディアデザイナー教科書や学習障がい、発達障がい、弱視等の視覚障がいのある児童・生徒のための「拡大教科書」の使用について問う。

答 デザイナー版教科書は購入していないが、「拡大読書器」(教科書を下に置いて文字を拡大して見るもの)は、一台使用している。今後も対象となる児童生徒の状況やニーズに応じて必要な支援を行う。

問 西部斎場の新築について。

答 西部斎場の年間の利用件数は約350件、参列者が建物内に入りきらない実情である。冬季間における駐車スペースの確保も含め、解決策を早期に見出したい。



市が購入した拡大読書器

その他の質問

- キャリア教育の取組みについて。
- 新しい公共「共助組織」への後方支援策について。
- 「市報よこて」を「広報よこて」の名称変更について。

※コンプライアンス…法律や条例を遵守すること。
 ※アウトソーシング…自社の業務や機能の一部または全部を、それを得意とする外部の企業などに委託すること。

※マルチメディアデザイナー教科書…一般の教科書を読むことが困難な子どもを支援するため、パソコン画面上に教科書と同じ文章や画像を映し、文章を読み上げる機能などがついたデジタル版教科書。



鈴木勝雄

横手南中学校の屋外施設設備を問う

●学校施設整備について
 問 教育方針には、平成25年は中学校の施設の整備方針はなく、小学校の統合方針だけである。昨年私が、南中学校の屋外施設の質問をしたところ、卒業生や父兄からも質問の通りと沢山の声を頂いて再度質問をする。

答 統合中学校の現状は、立派な校舎、体育館、更に野球場及び陸上、テニス場も整備されている。南中学校では、ひとつのグラウンドで野球と陸上の練習が行なわれている。これでは、学校間の格差と思われるので、南中学校の施設整備についての方針を伺う。

問 横手南中学校の屋外施設の整備については、昨年の議員の質問に優先的に行いたい旨の答弁をし、平成25年度当初予算に陸上競技場の整備費について提案している。

また、テニスコート整備についても、早期実施で協議している。野球場については、多目的グラウンドを南中学校に優先的に使用できるようにしている。現時点では、南中学校の野球場新設予定はない。

●農業施策等について
 問 産地収益力向上プログラムの重点作物を拡大し、5%アップ事業の成果、平成25年からの目標達成に向けた新たな取り組みとしての支援対策を問う。

答 産地確立緊急対策事業で支援、重点作物等の夢プランに対し、市独自の支援等検討をし、産地収益力向上に努める。

問 平成25年産地づくり事業では、平成24年までと変わるころがあるのか、また戸別所得補償制度は。

答 産地づくり事業では、戦略作物や重点振興作物等の転作交付金事業は継続する。堆肥を活用した野菜づくりは、対象をトマト、キュウリにも拡大助成する。また、戸別所得補償制度は、平成25年から経営所得安定対策となり、内容は同じ枠組みである。



南中学校グラウンドの早期整備を



小沢秀宏

水道工事の入札について

●水道工事の入札について
 問 住居が密集している一本道路であるにもかかわらず、真冬の水道工事について、何故この時期になってしまったのか、入札の時期に問題があるか、この点について伺う。

答 雄物川東部地区第二工区入札、平成24年8月30日、上流（大見内）地区との関連があり、迂回路確保を考え、上流の工事終了後、第三工区入札、平成24年10月25日、11月20日工事着工になってしまった。夏場でも非常に狭い市道であり、難儀であろうと重々承知していた。農作業に障害のないようにと考え、冬期間になってしまった。今後も地域の状況を考慮して対処して行きたい。

●平成22年6月に請願採択されている市道陸合一造山間の道路脇の防雪柵設置について
 問 3年続きの豪雪で、通学路、生活道路であり、地域市民の287世帯からの請願であり、吹溜りでの事故等が心配されている。早急の対応が必要かと思ひ、伺う。

答 市道陸合一造山に関して、十文字3.3km、雄物川地区2.7kmで全線の要望であり、およそ工事費7億2千万円であるかと考えられる。財政も考慮し、特に危険な4箇所を絞り、今後財源を確保し、早急の着手を検討していく。



吹雪で見通しの悪い雪道



冬場に行われた水道工事



青山豊

スポーツ観光の推進、雪対策について問う

●スポーツ観光について
 問 推進するための戦略は。

答 観光物産情報を積極的に発信し「また行ってみたい横手」の印象付けを図っていく。

問 スポーツ観光のような地域経済活性化を目的とした施策には数字を伴った目標が必要かと思うが。

答 設立予定の(仮称)横手コンベンション協会において、スポーツ大会などの誘致数や宿泊者数の目標を掲げ活動を展開するよう働きかける。

問 コンベンション協会における市の役割、位置づけは何か。

答 会員として参画し財政的支援を行い、事務局に職員1名を派遣する予定だ。また、市主催のコンベンション事業を洗い出し、情報共有すると共に宿泊や食事の手配などにおいて積極的に協力を活用していく。

●雪対策について
 問 地域で労力が絶対的に

●その他の質問
 ○市民所得の目標数値化について。

答 雪対策を国に訴えるための基礎資料としても必要だ。

問 まずは高齢者を中心に冬期間の収支実態を調査する必要があるかと思うが。

答 高齢化により、間口除雪もできない家庭が目立つようになってきた。道路の除排雪を中心に考えてきた雪対策のあり方を見直す必要が出てきている。

問 不足していくことが予想される中、「共助」が雪対策において機能できるのは何年先かということも厳しく見極めなければならぬ。それを踏まえて大胆なまちづくりのあり方を研究する時期にきているのではないか。

答 高齢化により、間口除雪もできない家庭が目立つようになってきた。道路の除排雪を中心に考えてきた雪対策のあり方を見直す必要が出てきている。



スポーツを活用した地域活性化(チャンピオンズカップ横手)

議会から市への政策提案

スポーツ立市へ向け、条例を制定しました!



スポーツをキーワードとした賑わいのあるまちづくりを目指し、3月定例会において議員提案として、横手市「スポーツ立市よこて」でまちを元気にする条例を制定しました。これは以前から一般質問等でスポーツ合宿や大会の誘致、またスポーツ立市宣言など、その必要性を提言してきたことなどから、より具現化したいとの意向で、昨年11月に議員有志8名で条例策定検討会議を立ち上げ、この度、条例の制定に至ったものです。

議員から提案される政策的な条例は、横手市議会として初めての試みであり、様々な制約などもありましたが、その間、体育協会などスポーツ関係機関の皆様や市当局と意見交換を重ね、貴重なご意見

見を伺いながら条例の制定に取り組みました。スポーツは、人々に夢や希望、勇気を与え、体力や精神力の維持向上はもちろん、生活習慣病の予防など多様な効果を生み出します。また、スポーツは地域間交流の増加や市民連帯感の醸成、地域の活性化など、今後のまちづくりに大いに生かされます。これにより我が横手市が心豊かな賑わいのある都市として、さらに大きく発展するものと考えられます。

今年度はJRのデスティネーションキャンペーンがあり、横手コンベンション協会(仮称)の設立も予定され、本条例制定を機に、ますます交流人口の増加につながっていくものと思われま。議会としても積極的に施策の展開に関わり、「オール横手」でまちづくりに貢献できる仕組みの構築に寄与できるものと確信しております。改めて、条例策定にあたり、ご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。(小野正伸)



趣旨説明をする小野正伸議員

条文は議会ホームページをご覧ください。



3月定例会のあらまし

3月定例会は、2月25日から3月21日までの25日間の日程で開催されました。初日の本会議では、五十嵐市長から施政方針、高橋教育長から教育方針の説明が行われ、平成25年度の主要施策や基本方針などが示されました。続いて、報告案件6件、承認案件1件、議案60件などが上程され、議案については質疑を経て所管の委員会へ付託されました。

3月5日には会派代表質問、3月6日から8日にかけては一般質問が行われ、当局の考えを質しました。また、8日には補正予算案など議案4件が追加上程されました。

最終日には、各委員長から付託案件の審査結果について報告を受け、採決の結果、全ての議案を可決した他、陳情2件を採択しました。また、議会改革推進に関する報告を受けた他、議員提案の「スポーツ立市よこて」でまちを元気にする条例など議会案2件を可決して、全日程を終了しました。

3月定例会の概要

平成25年度一般会計予算

総額は501億600万円で、前年度の当初予算額と比較して9億2,600万円の増(1.9%増)となりました。



雄物川地区、大雄地区および横手地区の各小学校統合事業、学校給食センター統合事業などの教育関連施設の整備や、廃棄物処理統合施設クリーンプラザよこて整備事業の他、喫緊の課題となっている経済雇用対

策を進めるための予算等が計上されました。予算案は2日間にわたって一般会計予算特別委員会の各分科会で審査され、最終日の本会議では採決の結果、起立全員で原案のとおり可決されました。

平成24年度一般会計補正予算

一般会計補正予算(第10号)

あつたか灯油助成事業(大雪や灯油価格の高騰を受け、生活保護世帯や75歳以上の高齢者のみの世帯等に灯油券を配付)などが計上されました。

一般会計補正予算(第12号)

国の経済対策補正予算を受けて、横手ライスセンター改修事業や共同育苗施設建設、トンネル点検、道路舗装などの経費が計上されました。

条例(主な新規条例)

「スポーツ立市よこて」でまちを元気にする条例

横手市議会初めての議員提案による政策条例を制定しました。(詳細

は9ページをご覧ください。)

市民農園設置条例

平鹿町醍醐地域で新たに開設される市民農園等の運営について定めるものです。

契約

財産の譲渡契約の締結について

大森町にあるきこの培養センターの施設一式を農事組合法人横手市大

森町きのこセンター利用組合に譲与するものです。

最低賃金の大幅引き上げと、中小零細企業支援の拡充を求める意見書

地域別最低賃金の大幅引き上げと地域間格差の縮小、また、中小零細企業の経営や生活支援の施策が講じられるよう関係行政庁に意見書を提出することが可決されました。

賛否一覧表(平成25年3月定例会)

案件名	会派・議員名																表決数		議決結果											
	市民の会				新風の会				新政会				ニューウェーブ				賛成	反対												
	菅原誠	齊藤光司	奥山豊	阿部正夫	高橋勝義	田中敏雄	木村清貴	佐藤誠洋	高橋聖悟	小野正伸	土田祐輝	遠藤忠裕	佐藤清春	佐藤忠久	青山豊	小沢秀宏	堀田賢逸	佐藤徳雄	齊藤勇	立身万子	鈴木勝雄	高橋大孝	播磨博一	佐々木喜一	佐藤功	塩田勉	土田百合子			
①温泉施設に関する説明を求める動議	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	15	否決
②議案第12号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	26	1	原案可決
③議案第19号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	23	3	原案可決
④議案第36号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	23	3	原案可決
⑤議案第37号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	23	3	原案可決
⑥議案第58号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	26	1	原案可決
⑦議案第5号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7	20	否決

○：賛成 ●：反対 退：退席 欠：欠席
※佐藤清春議長は採決に加わりません。
※採決で賛否が分かれた案件を掲載しています。他は全会一致で可決されました。

- ◇議案第12号……公の施設の指定管理者の指定について(天下森スキー場)
- ◇議案第19号……平成24年度横手市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)
- ◇議案第36号……平成25年度横手市国民健康保険予算
- ◇議案第37号……平成25年度横手市後期高齢者医療特別会計予算
- ◇議案第58号……平成25年度横手市水道事業会計予算
- ◇議案第5号……TPP交渉参加に嚴重抗議する決議



陳情の審査結果

陳情2件が審査され、次のような結果になりました。

採択

- ◇陳情◇雄物川町東里地内・東里中線の融雪側溝入れ替え整備について
東里四融雪組合
- ◇陳情◇最低賃金の大幅引き上げと、中小零細企業支援の拡充を求めることについて
秋田県春闘共闘懇談会



老朽化の著しい融雪側溝(東里地区)

厚生 常任委員会

◆平成25年度当初予算

*病院事業について

◎医師や看護師等の確保に向けた取り組みについては、

◎医師や看護師等が、働きやすい職場の整備が重要と考えており、大森病院で開所する院内保育所はその一環である。また、最新の機器を備え、医師たちの働くモチベーション、診療の環境も整えていくことも大事な策と考えている。

◎公立の病院として、横手、大森病院とも地理的要因やそれぞれの特徴を生かしながら、また、平鹿病院も含めて横手医療圏における役割を検討する必要



新設の大森病院院内保育所 森のこハウス

があるのではないかと

◎現状として、横手病院が急性期を担い、大森病院は一定の急性期を担いつつ療養型病床をもっているということ、慢性期の患者も診るという特徴を有している。平鹿病院も含めお互いが補完しあいながら市民の安心を守っていききたい。

*生活保護について

◎生活保護の状況とその対応について。

◎生活保護世帯は24年4月末現在685世帯924人から25年2月末には645世帯879名と減少傾向にある。自立支援を強化しながら対応しているが、今後受給世帯が増えるようなことがあれば、ケースワーカー（現在8名+査察指導員2名）の人数を考えていかなければならない。

*老朽危険空き家対策について

◎市が寄付を受けて解体する空き家の跡地の活用は？

◎町内の管理の下で雪よせ場などの公共的

な用地として、活用してもらう。



25年度は、使い途のある2カ所を予定している。

*地域医療連携推進事業について

◎高齢化社会の中でこの事業の重要性が増すと思うが？

◎医療、介護サービス、介護予防、地域での見守り、生活支援など多くの人が連携し、在宅での暮らしを支える体制づくりをさらに進めていくために、前年度比18%増の予算措置をした。医師の負担、地域特性も考えながら検討を加えていく。

◎その他

*社会福祉費（高齢者・障がい者福祉費、介護対策等）に73億6000万円。

*児童福祉費（保育園、子育て

支援等）に50億7600万円。

*保健衛生費（ワクチン、健康の駅、斎場等）に28億2900万円。

*清掃費（ごみ、し尿処理等）22億1900万円。

厚生常任委員会所管の民生費衛生費は一般会計予算の中の約40%で予算規模は200億円です。

◆平成24年度3月補正予算

◎ワクチン接種緊急促進事業やがん検診クーポン推進事業が減額補正となっている。本当に必要な活動をしている人もいるのになぜ減額か？状況はどうなっているのか？

◎多くの方に受診していただきたくてということでも他課と連携したり、電話勧奨したが、実績としてこの結果だった。

◎配食サービス事業が減額補正になった原因は？

◎高齢者のみ世帯やその世帯の伸びを見込んで当初予算を計上したが、実績は平年と変わらずだったために減額となった。今後はPRに努めながら利用者の増加を図りたい。

（高橋聖悟）



活用が期待される粉穀暖房機

所については、直売所だけでなく、農家レストランや観光の要素を加えながら関わっていく。

◎パイオマス事業について、

◎粉穀暖房機は、400坪用が125万円、100坪用が55万円、それ等の二分の一を助成するものである。

◎空き店舗活用事業に関する活用状況と今後の見通しは。

◎平成24年度は、この事業を活用し、起業されるケースが5件ある。開設後、一定期間を置いて調査したが、休止した話はない。事業が出来て間もないが、今の所は有効に使って頂いていると認識している。

（高橋勝義）

産業経済 常任委員会

◆市民農園設置条例について

◎指導や管理体制は整っているか。

◎農園設置後にしっかりと運営が出来るよう、現在、農林整備課、平鹿地域局産業建設課及びゆつぷるの三者で協議を重ねている。

◆多目的共同利用施設等設置条例の一部を改正する条例について

◎今回施設を設置するに至った経緯は。

◎建設計画をつくる際に各地域に要望はないか、事前に確認してきた経緯がある。過疎計画を含めた、平成27年度までの総合計画後期計画の中では、この集会所が最後の建設となる。

◆平成25年度市営温泉施設特別会計予算について

◎審査の参考に、上畑温泉さわらび、鶴ヶ池及びゆとりおん大雄の温泉三施設について、指定管理の委託先参考人として出席を求め、委員会に来て頂いた。参考人から平成25年度の事業計画や経営方針を述べてもらい、その後、委員から参考人に対して質疑が行われた。



花きの生育状況を視察

◎雇用を確保するという意味

◎内容は、売上げ目標に対する具体的な取組み、ターゲットに対する客層に合わせたサービス展開、外部への情報発信等であった。

◆平成25年度一般会計予算

◎安定雇用、人材育成促進事業について、今回は新卒者だけでなく、一般も対象としている。現在ある企業に対し助成する事も大事だが、企業を誘致すれば、助成は不要になる。誘致できるような攻めの姿勢で頑張ってもらいたいだろうか。

◎雇用を確保するという意味においては、新しい企業に来て

もらう事が大切であるという事は認識している。

◎農林水産業費の中で、果樹の雪害について、農薬の助成が5%アップし、15%になった事は評価するが、具体的に再生策は検討しているか。

◎由利本荘市島海地区は、横手と同じ位降雪がある。一昨年はさほど、樹木の被害を受けなかった。県でも注目しており、仕立て方法に違いがあるとの事だが、横手でも使えるか検討している。

◎食と農からのまちづくり事業の詳細について。また、多機能型直売所構想について、産業経済部としてどう関わっていくか。

◎仙台圏及び東京圏への直売所の設置事業、食のマッチング商談会推進事業、多機能型直売

建設常任委員会

建設



再開発の検討がなされる十文字駅周辺

◆平成25年度当初予算
 ⑩ 十文字、増田地区まちづくり事業について、十文字地区は道の駅、庁舎、駅を一体的に考えるべきだが、現在はそれぞれの整備が個別に検討されている。そのような縦割りの弊害をなくす方法は考えているのか。

⑪ JR十文字駅周辺の再開発については、合併当初から作業を進めてきたが、道の駅十文字の賑わい等により状況が変化している。現在、基本構想策定のため、現地調査を秋田大学に依頼して行っており、その中で地元住民の意見を聞いているところである。今月中には、十文字地区の自治会代表者や各種団体

と意見交換を行う予定であり、それらを踏まえて基本構想をつくっていくことになる。

⑫ 空き家対策については、くらしの相談課で対応しているが、市に空き家の寄付を希望するケースは数多いようである。しかし、現在のところ寄付を受けて、跡地を活用しているのは3カ所にとどまっている。建設部としても冬期間の際、雪対策に有効な手法として、積極的に取り組むべきではないか。

⑬ 住宅密集地では、冬期に雪押し場所がないという声がよく聞かれるので、空き家の跡地を活用するのは有効な手段であると考えられる。しかし、まずは空き家を解体しなければ利用できず、解体には費用がかかる。くらしの相談課等と連携を取りながらできる限りの対応を考えていきたい。

⑭ 農業集落排水事業について、企業会計にした場合、減価償却費はどの程度になるのか。また、企業会計にしても運営していいのか。

⑮ 平成25年度予算で、固定資産評価の委託料を計上している

る。それにより資産評価や収支の分析を行い、減価償却費がどの程度なのか、また企業会計にしても運営していけるのかどうか、長期的な収支計画を立てて検討していく予定である。

◆平成24年度3月補正予算

⑯ 南朝日が丘住宅の老朽化への対策について伺う。

⑰ 今年度、外壁の断熱化工事と併せて塗装を行った。残った4棟についても、当初は平成25年度及び平成26年に予定していたが、国の経済対策事業により、前倒して工事を実施したいと考えている。その後、南朝日が丘住宅セカンドの2棟についても、外壁断熱化や塗装、必要



睦合地区の今泉浄化センター

に応じて内部の補修等を行いたい。

⑱ 市営住宅の家賃滞納について、収納率の状況を伺う。

⑲ 収納率は向上しているが、大口の滞納者による未納が多く、金額的に百万円程度の滞納者も数人いる。そのような場合には、法的な対応も必要だと考えている。

⑳ 今冬、凍上災の対象となる道路はあるのか。

㉑ 凍上災として採択される要件の1つに凍結指数がある。今冬は、昨年度程気温が下がらなかったため、凍上災はないという状況だった。

㉒ 下水道事業の特別損失への対策について。

㉓ 受益者負担金における不納欠損額は、平成23年度が約397万円、平成24年度の見込みは、約321万円であり、約70万円減の見込みである。その対策としては、下水道課の全員で滞納者を対象に戸別訪問しながら徴収活動を行っている。不納欠損額が増えないように、今後も継続して訪問活動を行っていく。

(高橋大)

総務文教常任委員会

総務文教



大雄コミュニティセンターとして活用される旧大雄中学校

① 旧大雄中学校が交流施設として活用されるが現状のままでは不具合はないのか。また、今後修繕等を行う予定はあるか。
 ② 現在は中学校の備品が残っているが、4月からの使用に向けて整理していく。地域づくり協議会から施設の整備を求める声もあるが、現状で十分使える状態にあるので、基本的にはあまり手をかけずに整理して活用していただく考えである。
 ③ 平成27年開校予定の雄物川、大雄地域の統合小学校の校名の決定経過について。
 ④ 両地域とも校名選定委員会を開催している。委員は、各地

区の代表者とPTA、学校職員、教育委員会の代表者である。雄物川地域は1回の委員会で、委員の総意により「雄物川小学校」と決定した。

大雄地域は2回委員会を開催しているが、1回目に地域住民に対してアンケート調査を行うことを決定し、2回目の委員会でその結果を踏まえて「大雄小学校」と決定した。

◆平成25年度当初予算

⑤ 議会ではこれまで入札制度のあり方について様々な要望や提言をしてきたが、これについてどのような検討がされてきたのか。

⑥ 議会からの意見を受けて、契約検査課では地元業者への優先発注について検討を行い、昨年11月の契約検査会で平成25年度から取り組む2つの内容を決定した。一つは建設工事の下請負、資材調達、重機借上げには市内業者を活用するよう契約業者に強く要請すること。もう一つは契約検査課を通さず各課で個別に発注する場合においても、市内業者への優先発注について意識の共有を図り、可

能な限り市内業者への発注を優先していく。

これまで慣例的に市外業者と契約しているケースについても市内で出来る業者がいれば、契約相手の見直しを検討していただくことになる。この方針を庁内全体に周知して、全庁的な意識の共有と市内業者の積極的な活用を進めていく予定である。

⑦ 増田の歴史的町並みに注目が集まっている。エリア内の道路や水路の整備も必要と思うが、どのような計画になっているのか。

⑧ 伝建制度で整備できるものは建物や塀などに限られ、道路



注目が高まる増田の町並み

⑨ スクールバスの運転手の現状、及び今後の増車に対する人員確保の見込みについて。

⑩ シルバー人材センターで今年度から運転手の派遣業務を中止したことを受けて、これまで派遣されていた運転手を非常勤職員として継続雇用した。現在運転手は31名、平均年齢は61歳である。平成25年度はハローワークに募集を行った上で確保することにしている。

今後も学校統合により台数の増加が見込まれるが、今のところ募集を行うと2倍近い倍率になる。少なくとも定員を割ることとはないと考えているので、現時点では運転手の確保について特に心配はしていない。

(播磨博一)

議会改革推進特別委員会 最終報告

本委員会（10名）は、議員定数、議員報酬、政務活動費、政治倫理等について検討するため昨年の6月定例会で設置され、計15回にわたり議論してきました。議員定数・議員報酬・政務活動費については、全国の34市議会への独自調査の他、市民アンケートを実施しました。このような経緯を踏まえて最終報告いたします。

●議員定数について

現在、議会活動は委員会活動が中心であり“常任委員会を効率的に運営できる人数”を検討した結果、議員活動のあり方を工夫することで、議員数を削減しても適切な対応が可能という意見もあり、『定数を4名削減して26人とすべき』との結論に至りました。

●議員報酬について

市民アンケートでは、「高い」という回答が65%を占めました。しかし、現在、市議会議員には審議能力の強化、調査研究、政策提言を行っていくことが求められており、全国の類似自治体との比較、定数削減の方向づけをしたことから、『現行の報酬額を維持すべき』との結論に至りました。

●政務活動費について

当市の政務活動費は月額1万円であり、全国の



地方自治法改正セミナーでの研修

類似自治体と比較しても決して高い水準にはありません。協議では、充実した議員活動と資質向上を図るべきではあるが、『現状を維持すべき』との結論に至りました。

●議員の政治倫理について

議員の政治倫理については、議会基本条例に基本姿勢が謳われていますが、さらに政治倫理を向上させるためには、その指針が必要との理由から『政治倫理条例を制定すべき』との結論に至りました。

今回の報告では更に議論を深めなければならない部分もあります。市民アンケートでは議会や議員の活動が見えない、活動に満足していないという意見を多数いただきました。このことを重く受け止め、議会本来の機能を十分に発揮して、市民の声に答えていく必要があると考えます。



厚木市議員団（木戸五郎兵衛村）



那珂市議員団（議場）

厚木市・那珂市 友好都市交流会 2月15日・16日

三年続きの豪雪となった真冬の横手に、友好都市の厚木市（神奈川県）、那珂市（茨城県）の議員団一行16名が来横しました。両市とも本市とは災害協定を締結しており、夏には横手市議会が両市を訪問しています。

両市とも五十嵐市長を表敬訪問し友好を深めたほか、意見交換、懇談会を行い、それぞれの市の発展に役立てるためお互いの市の長所、短所等について話し合いました。

訪問団一行は、「かまくら」見学では、子供達の「はいってたんせ」「あまえこ、のんでたんせ」の横手の方言にとまどいながらも、横手の冬の行事、風物詩を堪能され、雪国の幻想的な夜景に感心されていました。昔ながらの伝統を後世に伝えることが大事であることを痛感しました。

両市共に「ぼんでんコンクール」では優秀作品に議長賞を授与し、若衆達から大歓迎でした。両市のますますのご発展を祈念いたします。（高橋勝義）

編集後記

♪春は名のみの風の寒さや
 ようやく北国にも春の訪れを感じられるようになりましたが、軒下の雪が3年連続の豪雪を忘れさせまいと、未だに陣取っています。

新年度に入り、新たな出会いに胸膨らませて子供供たちも多いことでしょうか、相変わらず、「体罰問題」がマスコミを賑わせています。我々、子供の頃は先生からの愛のムチは日常茶飯事で、家で話そうものなら『おめ、悪（わり）してなべ』と逆に一蹴されたものです。暴力行為は論外ですが、今後、事なかれ主義になりそうな教育現場が心配です。先生、生徒、保護者の確かな信頼関係を取り戻すことが急務ではないかと思いが…。

『いややるか？ 今でしょー！』
 （小野正伸記）

◇議会広報委員会◇
 委員長 青山 豊
 副委員長 高橋 聖悟
 委員
 土田百合子・立身万千子
 小野 正伸・高橋 大
 佐々木 誠・播磨 博一
 高橋 勝義